

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (95) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(95)—

1. 始めに

前報(94)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、今回からスピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は宗教曲です。

GARNET G 40 103

モーツアルト Missa Brevis

Te Deum

Kirchensonate Nr.12

Regina ceoli

Hubert Guenther 指揮 Reinishes Sifonie Orchestra

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

GARNET 盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

録音が古いようで、ジャケットには一応 stereo と表示されていますが、ステレオフォニックな広がり感はそれほどではなく、合唱やオーケストラの分離もよくなく、全体的にナローレンジな印象です。

しかしながら、演奏自体はしっかりしており、ソリスト、特に Missa Brevis のソプラノとアルトは、しっかりと前面に浮き出て歌唱の確かさも伝わってきます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E などの総合的な効果として、古い録音ながら演奏の確かさなど、上記の盤の特徴が把握できました。

以上